思いをつなぐ　いのちをつなぐ
tsunagu
つなぐ
3.11を忘れない
今、わたしたちにできること

特集（2～3P）
シンポジウム
「原子力防災を考える」
（3/2開催）

Vol.4
2014.4
発行
つなげよう
脱原発の輪
上越の会

『なくそテ原発 柏崎大集会』8.24開催 決定！！

柏崎刈羽原発が立地する柏崎市で、かつてない規模の1100人による集会が行われようとしています。県知事署名に賛同する14団体が呼びかけ団体となり、県内外の様々な団体・個人の手で作り上げていきます。

暑い夏に1100人の会場を溢れさせ、全国に柏崎刈羽原発の再稼働反対と廃炉をアピールしましょう！

日時：8月24日（日）13：00～
会場：柏崎アルフォーレ
　　大ホール（柏崎駅近く）
主催：なくそテ原発 柏崎大集会
　　実行委員会
　　（実行委員長　植木史将）
内容：講演会、団体交流会、合唱
　　風船飛ばし、デモ行進、
　　福島の声など（検討中）

県知事署名
「柏崎刈羽原発の再稼働に反対し、廃炉を求める署名」

◎3月11日2次締切のご報告
（3/28現在署名数）

当会のみ…12,328筆

14団体合計…40,685筆

ご協力ありがとうございました。

◎今後の県知事署名活動
「中間3次締切…9月30日」決定

当会目標2万筆、全体目標10万筆までまだまだです。デリ署名、街頭署名などで元気に署名を集めましょう！草の根運動で世論をup↗

併せて「柏崎刈羽原発Q&A」の配布も！

デリ署名で10万筆達成を！！

「昨年11/24（日）よりスタートした戸別訪問デリ署名。7名のエントリーで4ヶ月足らずで514筆を頂けました。少雪とはいえ、1月には格段に寒い日もあり手も凍るほどでしたが、訪問先での心温かい励ましも頂き、がんばれました。

これから春に向かい絶好のデリチャンスの到来です♪皆さまのご協力を頂き、脱原発を実現して放射能脅威の無い安心安全な生活を目指しましょう！！」
（デリ署名担当　大坪さん）

※ダブりの無いように、デリ予定先を事前に担当の大坪さんにご連絡ください。（090-7001-6743）

※デリ署名とは…デリバリー署名の略。何のことはない、戸別訪問署名のことです。既に家族、知人に署名してもらったあなた。無限の可能性と思わぬ出会いが待っています！

2014年3月2日(日)

於:上越市本町「雁木通りプラザ多目的ホール

つなげよう脱原発の輪・上越の会主催

シンポジウム「原子力防災を考える」開催

２月20日に新潟県が柏崎刈羽原発に過酷事故が発生した際の「広域避難の行動指針」を、県内全市町村でつくる「原子力安全研究会」で説明し、広域避難計画に向けて調整作業が始まっています。ですが、はたして実効性をもった避難計画は可能なのでしょうか？　上岡直見さん（法政大学非常勤講師：環境政策）の研究によれば、柏崎刈羽原発の場合、30キロ圏内の住民がマイカーやバスで避難するのに29時間半の時間が必要（2014年１月２５日「新潟日報」）。原子力防災については、考えれば考えるほど「ホントに大丈夫なの？」という疑問、不安が沸き立ってきます。一方で安倍政権は原子力発電を「ベースロード電源」とする「エネルギー基本計画」を決定して再稼働に向けた動きを加速させようとしています。

このような動きがあるなか、私たち「つなげよう脱原発の輪　上越の会」は、「どうやって原発事故から守る？　私たちのいのち・くらし」と呼びかけ、３月２日（日）の午後、雁木通りプラザ多目的ホールを会場に、阪上武さん（福島老朽原発を考える会・原子力規制を監視する市民の会）を講師にお招きし、シンポジウム「原子力防災を考える」を開催しました。当日はさまざまな運動関係の行事が重なる中、32名の市民が参加。あらためて「原子力防災」の困難さを直視することとなり、原発の再稼働を許さず、「脱原発」に向かわなければならないという思いを一人ひとりが胸に刻みこみました。

当日の様子を報告します。

開会にあたって、植木史将当会代表は、「一人でも多くの方々に柏崎刈羽原発で事故が起きたらどうなるのかを知っていただき、今日ともに学んだことを、また柏崎刈羽の現実を身近の方々に伝え、広げていただきたい」と挨拶し、シンポジウムは始まりました。

上越市の広域避難計画はこれから

坂上さんの基調講演に先立って、当会原子力防災担当の片岡豊さんが「上越市地域防災計画　原子力災害対策編」の概要について報告しました。上越市の「原子力防災」については、上越市の担当者をお招きし昨年末に説明会を開催しています（2014年１月『つなぐ』３号参照）。その折にも実効性についてさまざまな疑問が出されました。片岡さんは「原子力防災対策編」の概要を紹介するとともに、屋内退避や自家用車やバスでの避難を前提とする防災対策の実効性への疑問を改めて示し、今策定されつつある「広域避難計画」が出来上がったとしても、それが「再稼働」を容認する条件となってはならない、と訴えました。

上越市では、年度内を目途に「避難計画」を策定し、市民向けパンフレットの配布、避難訓練の実施を通じて実効性を高めていきたいとしていましが、３月末現在では「避難計画」も公表されていません。

阪上さんの基調講演

被曝なしの避難は考えられない！

阪上さんの「原子力防災　被ばくを避ける避難は可能か？」と題された基調講演は、「避難のたらい回し」ともいうべきことが起きた福島第一原発事故の避難状況の分析・検討から始まりました。

福島第一原発からほぼ30キロ圏の飯舘村では３月15日段階で線量が上がって自主的に避難し始めました。しかし山下俊一氏が４月１日に行なった「安全講演」があり、再び戻ってきた人がいるなかで４月11日に避難指示が出されたという混乱がありました。

浪江町では低線量であった海岸部から実は高線量となっている山間部に避難するという、線量把握の不十分さからくる混乱。また入院患者の避難が困難を極め、多くの方が移送時に、あるいはその後に犠牲になったことなど、未だに収束に向かわない福島原発事故初動時の混乱がリアルに思い起こされました。

３・１１の後、スピーディを使った予測的な避難システムから原子力防災指針が大きく変わり、スピーディを廃して、５キロ圏内は即時避難、30 キロ圏は線量が高くなれば避難、避難先もあらかじめ決めておくという IAEA 基準に沿った基準へとなっています。

会場からの質問に答える阪上さん

阪上さんは、この新基準に従って策定されている原発防災対策に話を進め、新潟県では規制委員会の指針に対してスピーディの利用、複合災害対策、避難困難者の対応等について国が対策を明示するよう要望書を出すとともに、「原子力安全研究会」で広域避難計画の検討を行なっている、という実態、それでもなお、新潟県の「広域避難の行動指針」が「ヴォリューム１」としてあり、**今策定されたとしてもそれは不十分なものでしかない、というメッセージを県自身が発している**ことを明らかにしました。

講演の締めくくりでは複合災害対策に触れ、県が国に問いかけているのは自然災害と原子力災害での対応の一本化ということだが、実際の対応の仕方の問題として、地震の場合には車はキイをつけたまま乗り捨てるとしているにも関わらず、原子力防災では自家用車避難を前提にしている、という矛盾を指摘。今後、雪害をも含め、複合災害対策の具体的なあり方について追求していく必要性を強調。さらに「原発に関心のない人にも放射能は降ってくるので、原子力防災問題は、多くの人に原発問題に関心をもってもらうきっかけになる」と語って基調講演を締めくくりました。

なお、その後の質疑討論も含めてシンポジウムの詳細を「報告集」として４月中に刊行する予定です。

○●○参加者の感想から○●○

○原発に関心のない人たちに、原発防災の難しさをどのように伝えていけばいいのか、改めて考えさせられました。

○大変広く深くお話が聞けて、ありがたかったです。

○阪上さんのお話をうかがい、あらためて原発事故の怖さを実感しました。最後に複合災害の話がありましたが、山梨での雪による交通遮断のことを思うと、雪害との複合に背筋が寒くなります。

「有効な避難計画を作るのは不可能」

泉田新潟県知事
ヤツコ前米原子力規制委員長との対談で明言

（2014 年３月 15 日『朝日新聞』朝刊より）

東京電力柏崎刈羽原発を抱える新潟県の泉田裕彦知事が、東日本大震災発生時に米政府の原子力規制委員長だったグレゴリー・ヤツコ氏と対談し、原発事故や地震の複合災害が起きた際の住民避難について「国の制度全般を見直さない限り、有効な避難計画を作るのは不可能だ」と明言した。ヤツコ氏は「避難計画が不十分なら、米国では原子力規制委が原発停止を指示するだろう」と指摘した。

東京都内で 12 日夜に対談した。ヤツコ氏が柏崎刈羽原発について「地元の避難計画はできているのか」と質問。泉田知事は「機能しない計画は作れるが、実効性が伴わない」と答え、理由として労働者の被曝線量限度が法令で厳しく定められており、住民輸送に必要なバスの運転手に避難指示区域に入る指示をするのが難しいと指摘。「民間人の線量基準を緩めるか、救助してくれる部隊をつくるか、この合意なしに自治体に避難計画を作らせるのは無理だ」と強調した。すでに避難計画を作った自治体もあるが、「形だけで実際には機能しない計画だ」と述べた。

泉田知事は福島第一原発事故の検証と総括が終わるまでは原発再稼働の議論に入らない考えを改めて強調したが、「有効な避難計画の策定」も再稼働への新たなハードルになる可能性がある。（奥山俊宏）

東電と新協定請願を不採択

上越市議会常任委

上越市議会3月定例会総務常任委員会は14日、東京電力柏崎刈羽原発の再稼働に関する事前了解を含む新たな安全協定を市が東電と締結するよう求めた請願1件を審査し、賛成少数で不採択とした。

陳情書は、上越市の市民団体「つなげよう脱原発の輪　上越の会」が2月に提出した。植木史将代表は常任委で「市は東電と立地自治体並みの協定を結び、市民の安全安心を確保してほしい」などと述べた。

委員からは、市が昨年1月、柏崎市、刈羽村を除く県内市町村とともに東電と結んだ安全協定があると指摘した上で「すでに立地自治体と同じ内容と目的を持っており、必要ない」との反対意見が相次いだ。賛成する委員は「福島第1原発事故ではいまなお深刻な状況が続いている。協定を拡充すべきだ」と述べた。

●○上越市議会「東電との新協定」を求める請願を不採択○●

上掲「新潟日報」（3 月 15 日）に報道されたように、14 日の総務委員会で審議された「東電との新協定」を求める請願が、賛成３・反対４で不採択となりました。行政として市民の安心・安全をより一層確保すべき、という立場からの請願でしたが、審議では委員に一定の理解はえられたものの、残念な結果に終わりました。

当会としては、今後も脱原発に向けた市議会への働きかけを行っていきます。

私の思い

脱原発の方向は選挙から

佐藤みちよ（上越市安塚区）

二年前の夏、「これを読んで、よろしかったら署名して頂けませんか」と勧められて簡単に署名したのが《つなげよう脱原発の輪　上越の会》の皆さんにお会いするきっかけになりました。と言っても会員とは名ばかりで、なんの活動もしていないのが実態です。会報誌掲載の原稿を依頼されてお引き受けしたのは、自分の中の迷いを払拭するため、気持をきちんと整理するためでした。

三年前の三月十一日の原発事故の爪あとは、今も残されています。あの悲惨さを風化させないように、二度と繰り返さなれないように、全国各地で脱原発運動が行われていますが、肝心要の政権与党は、原発推進の態度を大きくしているように感じられます。国の方向を決めるのは国会議員に託されている現状です。東京都知事選は残念な結果に終わりましたが、国の方向、脱原発の方向は、ぜひ国民の手で勝ち取りたいと思います。正しい進路選びは、選挙での議員選びからスタートするように思えてなりません。

＊プロフィール：安塚で生まれ育ち、大学進学でいったん故郷を離れ、20 年ほど前に U ターン。現在は「どさんこ安塚店」を経営。

◆◇秘密保護法学習会に参加◇◆

（仮称）STOP 秘密保護法・上越市民の会準備会が３月６日に開催した秘密保護法学習会に参加しました。知る権利や表現の自由を抑圧する秘密保護法が施行されれば、脱原発の運動にもプレッシャーがかけられること必至。次回学習会は４月 17 日（木）19:00～21:00、上越市民プラザ多目的室で開催されます。

◆◇「つな脱」定例勉強会のおしらせ◇◆

○4月3日（木）19:00～21:00
於：上越市民プラザ第６会議室
○5月1日（木）19:00～21:00　於：同上
○6月5日（木）19:00～21:00　於：同上
それぞれご予定ください。

◆◇編集後記◇◆

♥会報「つなぐ」第４号をお届けします。賛同人の皆さんからの投稿を期待しています。どしどしお寄せください。♥「つな脱」も３年目。５月２５日（日）の午後、２周年行事を予定しています。どんな企画にするかアイデアをお寄せください。（Y・K）

◎つなげよう脱原発の輪　上越の会◎

代表：植木史将（090-4962-9633）

カンパ先：ゆうちょ銀行 11269-13169471（名義当会）